

# 生活の中から課題を見つけ、よりよくしようとする子どもの育成

ー第5学年「かたづけよう 身の回りの物 ～目指せ！かたづけ名人！～」の実践を通してー

松山支部

## 1 研究の視点

- (1) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実
- (2) 生活をよりよくしようとする力を高めるための言語活動の充実

## 2 実践事例

- (1) 題材名 「かたづけよう 身の回りの物 ～目指せ！かたづけ名人！～」
- (2) 目標

- 身の回りの整理・整頓に関心をもち、身の回りを快適に整えようとする。
- 環境を考え、整理・整頓やごみの始末、不用品の活用の仕方を工夫する。
- 身の回りの整理・整頓やごみの始末、不用品の活用をすることができる。
- 整理・整頓の仕方やごみの始末、不用品の活用の仕方が分かる。

### (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童（33名）は、4月から始まった家庭科の学習を楽しみにしており、興味をもち意欲的に学習に取り組んでいる。これまでに行った「はじめてみようクッキング」の学習においては、「ゆでる」という調理法に興味をもち、進んで調理実習を行ったり、ゆでることによって食品にどのような変化が表れるかを意欲的に学習したりすることができた。また、「わたしと家族の生活」の学習においては、多くの家庭の仕事を家族が行っていることに改めて気づき、自分のできる仕事を増やしていきたいという気持ちをもつことができた。しかし、一方で特に興味のある学習内容は、調理や裁縫の分野に偏っている傾向にあり、整理・整頓への関心は薄いといえる。年度当初に行ったガイダンスで、1年後2年後に、どんなことができるようになりたいかを考えさせた際にも、「料理を上手に作れるようになりたい。」「ミシンを使っていろいろな物を作りたい。」などの思いをもつ児童が多く、住まい方に関する意見はほとんど見られなかった。

普段の学校生活における整理・整頓の状況を見てみると、机や道具箱の中がきちんと整理・整頓できておらず、すぐに必要な物が取り出せずに困ったり、物を無くしたりする児童が見られる。また、教室で鉛筆や消しゴムなどの落とし物があったり、いつまでも持ち主が現れなかったり、筆箱の中にたくさんの消しゴムが入っていたりするなど、有り余るほどの物に囲まれて生活しているために、物を大切にしようという気持ちが育っていないように感じられる。衣服の片付けにおいては、給食着や体操服などをたたまずに入れてしまうために、着るまでに時間がかかる様子も見られる。家庭での実態をみると、掃除は家族に任せている傾向が見られ、自分で行おうとする意識が低いことが分かる。そのため、「整理・整頓をしよう。」と言っても、掃除の仕方が分からず、どのように工夫すればよいか分からない児童も少なくない。

ごみの始末や不用品の活用については、4年生の社会科や5年生の総合的な学習の時間に学んでおり、環境を守るために、できるだけごみを減らして、再利用していかなくてはならないという気持ちが育ちつつある。また、ごみを分別して捨て、リサイクルすることは大切であるということが分かって

### ★家庭科に関するアンケート

(調査人数：33名 調査日：平成27年5月12日)

1 家庭科の学習は楽しみですか。	
とても楽しみ	29名
楽しみ	4名
あまり楽しみではない	0名
楽しみではない	0名

2 家庭科で楽しみにしている学習は何ですか。(複数回答可)	
調理実習	27名
小物づくり (ソーイング)	23名
ミシンでつくる	20名
家族と過ごす時間	12名
快適な住まい方	10名
身の回りの片付け	8名

3 家のそうじは、進んでしていますか。	
している	10名
あまりしていない	19名
ほとんどしていない	4名

いる児童も多いが、実際に日常生活で実践できている児童は少数である。

- 本題材では、身の回りの物を使いやすさや見た目のよさなどの視点で、実際に片付けることによって、整理・整頓の方法を実践的に身に付けるとともに、整理・整頓をすることにより、気持ちよく効率的に生活できることに気付き、身の回りを快適に整えようと主体的に考え工夫する力を身に付けることをねらいとしている。ここでの身の回りの物とは、学習用具、本、衣類などであり、より児童の生活に関わりのあるものを取り上げる。それらを使用目的や頻度、大きさや形などによって整理・整頓し、使いたいときに必要なものがすぐに取り出せるように工夫することの大切さを感じ取らせることが重要である。さらに、整理・整頓や掃除などで出てきたごみの始末や不用品の活用により、環境を考えた生活の仕方の工夫について考えを深めさせることもねらいとしている。
- 指導にあたっては、気持ちよく効率的に生活するためには、まず整理・整頓が必要であるということを実感させることが大切である。そこで、導入段階において、より具体的な場面を設定し、自分の身の回りの整理・整頓に関する課題意識をもたせ、学習への意欲化を図る。そして、整理・整頓の具体的な方法について、実践を通して学ばせ、その技能の習得をより確かなものにするとともに、整理・整頓することの意義についても感じ取らせる。また、ごみの始末や不用品の活用などについても学習を広げ、アイデアを出させることにより、家庭生活を工夫することの大切さに気付かせたい。さらに、振り返る時間を大切に、学習前の自分と学習後の自分を比べ、自分の成長を自覚することによって、家族の一員として、実際に学んだことを生かして協力してこうとする実践的態度を育てていきたい。そのため、題材のまとめの段階においては、家庭での整理・整頓の実践計画を立てさせ、身に付けた整理・整頓の技能を家庭生活においても活用できるような場を設定したい。

本時は、まず道具箱の中から必要な物を取り出すという活動から、整理・整頓に対する課題意識をもたせる。整理・整頓の仕方を工夫する段階では、物が雑然と散らかっている道具箱を整理・整頓する体験的な活動を取り入れることにより、具体的な方法について考えさせ、使用目的や頻度、大きさや形などの観点から整理・整頓することの大切さに気付かせたい。その際、友達と一緒に整理・整頓したり、話し合ったりすることにより、もっとよい方法はないか考え、試行錯誤しながら問題を解決し合うという、学び合いを重視したい。各グループの整理・整頓のポイントを紹介し合う活動では、出店形式を取り入れることにより、クラス全体では発表しにくい児童も安心して発表できる場を設定したい。出店形式は、気軽に質問や意見を言うことができ、自分の考えとの相違点をまとめやすかったり、実際に道具箱を間近で見ながら発表を聞くことができたりするといった利点が考えられる。発表の際には、どのような思いからそうしたのか説明するように助言し、気付きや発見したこつなどを子どもの言葉でまとめさせ発表させることで、自分の思いや考えをより確かなものにさせたい。さらに、整理・整頓した後の快適さについても体感させ、今後の学校や家庭生活での実践への意欲につなげたいと考える。

(4) 指導と評価の計画 (全5時間)

次	時	学習活動	評価規準・評価方法			
			関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
一	3 (本時その一)	○ 身の回りを見直し、整理・整頓が必要な理由について話し合い、工夫しながら整理・整頓する。	○ 身の回りの整理・整頓に関心を持ち、整理・整頓しようとしている。(観察)	○ 整理・整頓の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(観察・ワークシート)	○ 身の回りの整理整頓ができる。(観察・実践カード)	○ 整理・整頓の大切さや仕方について理解している。(ワークシート)
	1	○ ごみの始末や不用品の活用方法を考える。		○ ごみの始末や不用品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方を工夫している。(観察・ワークシート)	○ ごみの始末や不用品の活用ができる。(観察・実践カード)	○ ごみの始末や不用品の活用の仕方を理解している。(ワークシート)

二	1	○ 家庭での実践計画を立てる。 ○ 家庭での実践の報告をし、整理・整頓のアイデアを発表する。	○ 整理・整頓に継続的に取り組もうとしている。(実践カード)			
---	---	---	--------------------------------	--	--	--

(5) 本時の指導

ア ねらい

身の回りを整理・整頓することの大切さやその方法が分かり、進んで行おうとしている。

イ 準備

道具箱・箱・ホワイトボード・ペン・OHC・デジカメ

ウ 展開

学習活動	予想される児童の意識の流れ	○指導上の留意点・◎評価
1 本時の学習課題を確認する。	○ 道具箱の中から、○○を取り出してみよう。 ・どこにあるのかな。 ・すぐに出せないよ。 ・早い人と遅い人がいるね。	○ 整頓されている道具箱と整頓されていない道具箱、自分の道具箱から、学習道具を取り出す活動を通して、その時間に差があることに気付かせ、課題意識をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どのように整理・整頓すれば、物を取り出しやすくなるだろう。 ～目指せ！かたづけ名人！～</p> </div>		
2 サンプルを使い、整理・整頓の仕方について考え、伝え合う。 ① 個人で考える。	○ 自分で整理・整頓の仕方を考えてみよう。 ・いらぬ物が入っているな。 ・まず、いる物といらぬ物を分けることが必要だ。 ・種類ごとに分けるといいな。 ・使う回数によって、整頓してはどうかな。	○ 雑然としている道具箱のサンプルを用意することにより、普段から整理・整頓できている児童も含めて全員が意欲をもって実践できるようにする。 ○ 各自の考えを書かせることにより、自分の考えをしっかりとめさせ、その後のグループ活動に臨ませる。
② グループで考える。	○ グループで意見を交換し、よりよい整理・整頓の仕方を考え、実践してみよう。 ・入っている物が見やすいように、大きな物は下に、小さい物は上に置くといいよ。 ・すぐに取り出せるように、よく使う物は、手前に置くといいよ。 ・あまり詰めすぎると取り出しにくいね。 ・物が混ざらないように、しきりを使うと、整頓しやすいよ。	○ それぞれの方法を実際に行いながら話し合いを進めさせることにより、ポイントを各班でまとめさせる。 ○ 実際に整理・整頓させることにより、より使いやすい片付けの仕方に気付かせる。
③ 出店形式で発表する。	○ 各グループで発表しよう。 ・□班のアイデアがいいね。 ・□班は、私の班と同じ工夫があるね。	○ 考えた方法を自由に試すことができるように、しきりなどに使えるような箱を用意しておく。 ○ 方法だけでなく、どのような思いからそうしたのかを説明するように助言する。

<p>3 整理・整頓のポイント をまとめる。</p>	<p>○ 学級全体で片付けポイントを まとめよう。 ・□班のよく使う物を手前に置く のは、よいアイデアだね。 ・□班のしきりを使う方法は、 片付けやすくいいな。 ・□班の意見は私たちの班と同じ で、賛成です。</p>	<p>○ 整理と整頓の違いについ ておさえる。 ◎ 道具箱の整理・整頓の仕方 が分かる。(知・理/ワークシート)</p>
<p>4 本時の学習のまとめ をする。</p>	<p>○ 学習した片付けポイントをも とに、自分の道具箱を片付けてみ よう。 ・最初と違って、きれいだ。 ・物が取り出しやすくなった。 ・見た目もすっきりして、早く学 習道具が出せそうだ。 ○ 整理・整頓しての感想を発表し よう。 ・整理・整頓の方法が分かった。 ・きちんと整頓すると、取り出し やすくなった。 ・これで早く物が取り出せそう だ。 ・見た目がきれいで、とても気持 ちがいいね。 ・これからも続けていきたい。</p>	<p>○ 自分の道具箱を整理・整頓 する時間を設けることによ り、片付けの方法の技能を身 に付けさせるとともに、整頓 した際の気持ちよさにも気 付かせ、その後の実践意欲を 高めさせる。 ◎ 身の回りの整理・整頓の大 切さが分かり、進んで整理・ 整頓をしようとしている。 (関・意・態/観察)</p>

(6) 活動の実際

ア 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

(ア) 身近な生活から学習課題をもたせるための導入の工夫

課題意識をもたせる学習の導入段階において、より具体的な場面を設定し、なぜ整理・整頓が必要なのかを感じ取らせるための工夫として、道具箱から学習用具を取り出したり(写真1)、給食着を着たり(写真2)する活動を行った。その際、学習用具を取り出したり、給食着を着たりするのに時間の差があることから、きちんと整理・整頓しておかないと取り出すのに時間がかかったり、給食着がくしゃくしゃになっていたりして困るということに気付かせることができた。そして、取り出しやすく整理・整頓するためには、どうすればよいかという課題意識をしっかりともたせて学習を進めた。



〈写真1 はさみを取り出す様子〉



〈写真2 給食着を着る様子〉

(イ) 体験的な活動の設定

整理・整頓するための片付けポイントについて実践を通して学ばせるとともに、より確かな知識の習得や実践意欲を高めることをねらって、実際に乱雑な道具箱のサンプルを用意して片付けたり、引き出しに洋服をたたんで収納したりする活動を取り入れた（写真3）。まず、個人で考えた片付けポイントをワークシート（資料1）に書かせた後、各グループで実際に整理・整頓させながら、片付けのポイントを話し合わせていった。また、その片付けポイントを各グループで発表させる際にも、実際に片付けた道具箱や引き出しの中を見せながら発表させた。

学習の終末段階においても、話し合っで見付けた片付けポイントに従って、実際に自分の道具箱を整理・整頓させることにより、自分の生活に生かし、よりよくしようとする実践意欲を高め、整理・整頓をした後の快適さに気付かせた（写真4）。



〈写真3 グループでサンプルの道具箱を整理・整頓する様子〉

どのように整理・整頓すれば、物が取り出しやすくなるだろう。  
～目指せ！かたづけ名人！～

1 自分の考えるかたづけポイントを書こう。

よく使う物を手前におく  
○えんぴつはふたはこの中に入れる  
○紙などはおとぐはこに入れない  
○くぼかれた紙は持ちかえる  
○ティッシュなどはおとぐはこに入れず捨てる

2 道具箱の整理・整頓について学習した感想を書こう。

みんなと話し合っかたづけをして、これからわか  
たづけをしたと思いました。私は整理整頓があまりといて  
ないので今日学習したこと生かして整理・整頓がかんこりた  
お持にかんはりたことは、使ったあとの場所にもどすとい  
とでおきれいにしてもすぐに散らかたりするので使ったあ  
の場所にもどすことを心がけていきたいです。自分が考  
えなかつたかたづけ方などが出て、どれも使ってみて  
思いました。整理整頓が大変なのがよく分かりました。

〈資料1 個人のワークシート〉



〈写真4 学習したことを生かして自分の道具箱を整理・整頓する様子〉

## イ 生活をよりよくしようとする力を高めるための言語活動の充実

### (7) 操作活動を取り入れた話し合い活動の充実

児童同士の学び合いを重視するために、各グループで片付けポイントを話し合う活動を取り入れた（写真5）。まず、各自の考えをワークシートに書かせることで、自分の意見をしっかりと見せながら、グループでの話し合いに臨ませた。さらに、各グループでの話し合いでは、実際に道具箱を片付けたり、洋服を引き出しに収納したりしながら話し合いを進めさせた。そのことにより、「よく使う物は手前に」「不用な物は入れない」「大きな物は下に」「しきりを使うと整理しやすい」「丸めてたたみ、立てて収納すると見やすい」といった片付けポイントに試行錯誤しながら気付くことができ、根拠をはっきりとしながら話し合いを進める姿が見られ、整理・整頓の仕方について考え、自分なりに工夫し課題を解決しようとする力を高めることができた。



〈写真5 実際に道具箱を片づけながら話し合う様子〉

### (1) 出店形式による発表

グループで考えた片付けポイントについては、実際に片付けた道具箱や引き出しの中を見せながら、出店形式での発表を行った（写真6）。全体では発表や意見が言いにくい児童も、気軽に発表したり質問したり意見を言ったりすることができた。また、それぞれのグループの発表を聞きながら、自分たちの片付けポイントとの共通点や相違点を考えることで、その後の全体での話し合いへの意欲化につなげることができた。



〈写真6 出店形式での発表の様子〉

## 3 成果と課題

### ア 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

学習の導入の段階で、実際に道具箱から学習道具を見付けたり、給食着を着たりすることで、「どのように整理・整頓すれば、物を取り出しやすくなるだろう」という課題意識を一人一人がしっかりともち、その後の学習に意欲的に取り組むことができた。また、片付けポイントを見付けさせるために、実際に道具箱を整理・整頓し、引き出しの中に洋服をたたんで収納するなどの体験活動を多く取り入れることにより、より確かな知識の習得につながり、生活に生かそうとする実践意欲の高まりがみられた。

### イ 生活をよりよくしようとする力を高めるための言語活動の充実

グループで片付けポイントを話し合ったり、出店形式で発表したりすることにより、児童同士の学び合いが充実し、考えを深めることができた。また、個からグループ、さらに学級全体での話し合いと段階的に学習展開を工夫したことにより、自分の考えを明確にして、生き生きと伝え合う様子が見られた。特に、出店形式での発表は、全員の児童が発表するという機会を保障することができた。しかし、すべてのグループの発表を聞くことができないというデメリットもあり、課題解決のために話し合いをより深める言語活動の形態について、さらに研究を深めていきたい。